



美里町荻^{おぎそね}埜の「朝日壇^{いたび}の板碑^{じぞうぼさつ}」は、地蔵菩薩を意味する梵字^{ほんじ}が刻まれた、弘安2年(1279)建立の町内で2番目に古い板碑です。石巻市稲井付近で採れる稲井石で作られています。板碑の建立には財力、権力が必要なため、当時この地域に有力な豪族がいたことが分かります。読み取れる文字から、亡き父の供養のために建立したと考えられています。

またいつの頃からか、この板碑は地域の人々から「御手水^{おちょうず}の水をいぼに付けて拝むといぼが取れる」と信じられ、神社でないにも関わらず「みずいぼ神様」として親しまれるようになりました。さらに願掛けの

際に水やお菓子を供える習わしも生まれ、板碑前に供えられる水が途絶えることはありません。今なお、そのご利益を求めて、広く参拝者が訪れています。